

# 我が人生最悪の時

林海象監督作品

1993年/日本=台湾/92分/モノクロ/DVD上映



©FOR LIFE MUSIC ENTERTAINMENT/映像探偵社

2021年10月16日(土)

[上映時間] ①11:30 ②14:30

[講演] 講師：林海象監督  
時間：13:10～14:10  
リモートによるオンライン講演

[会場] 横浜市旭公会堂

# 我が人生最悪の時

## 【物語】

横浜黄金町。  
映画館の2階に事務所を構える探偵・濱マイクは、ケンカから助けた台湾人の楊海平に日本にいる兄の捜索を依頼される。マイクはタクシー運転手の旧友・星野と共に捜査を進めてい

くが、背景にアジア系外国人で構成されている黒狗会と台湾マフィアの抗争があること、その組合員の一人が海平の兄であることが分る。師匠の宍戸と妹の茜は深入りしないようマイクに忠告するのだが…。

## 【出演】

濱マイク……永瀬正敏  
宍戸……宍戸錠  
星野……南原清隆  
神野……佐野史郎  
楊海平……楊海平  
侯徳健……侯徳健

王百蘭……南果歩  
茜……大嶺美香  
中山……鷹赤兒  
山口……塚本晋也  
晝間……千石規子  
濱リリー……鰐淵晴子

## 【スタッフ】

監督……林海象  
脚本……林海象  
……天願大介  
製作……後藤由多加

撮影……長田勇市  
美術……増本知尋  
音楽……めいな Co.  
助監督……行定勲



## 林 海象 (はやし・かいぞう) 監督 プロフィール

1957 年京都生まれ

映画監督・映画プロデューサー

1986 年モノクロ無声映画『夢みるように眠りたい』で映画監督デビュー、国内外でグランプリ受賞。

『二十世紀少年読本』(1989)、「アジアンビート」シリーズ(1991)などを経て、『我が人生最悪の時』『遥かな時代の階段を』『罨』の「私立探偵 濱マイク」シリーズ(1994-)、「探偵事務所5」プロジェクト(2005-)、『彌勒』(2013)、『BOLT』(2019)他多数。

最新作『BOLT』が「第22回上海国際映画祭」のパノラマ部門の正式招待作品として上映。2020年、デビュー作『夢みるように眠りたい』が、「英国映画協会が選ぶ、1925～2019年の優れた日本映画95本」の1本に選出。

映画の他にテレビドラマ、舞台も多数演出。



## 横浜市地域文化サポート事業・ヨコハマアートサイト2021

昨年に引き続き、今年も「ヨコハマアートサイト2021」に採択されました！！

〈採択事業内容〉 ロケ地で追悼上映会

・・・スクリーンで甦る映画スターと横浜の名所を回顧する・・・

『夢は夜ひらく』 渡哲也追悼！ (8月9日上映会終了)

ロケ地：ドリームランド・神奈川県立図書館・野毛山動物園など

『我が人生最悪の時』 宍戸錠追悼！ロケ地：横浜日劇(映画館)など

### 〈イベントの情報〉

9月23日(木・祝) 特別講演会 『横浜港』で撮影された映画  
終了(一般参加者:15名)

10月16日(土) 第65回上映会 『我が人生最悪の時』  
本日上映会

11月6日(土) 第66回上映会 『喜劇・いじわる大障害』

## 横浜キネマ倶楽部のスタッフ募集中！！

横浜市民とともに16年。映画好きが集まったグループです。自分が観たい。又、他の人にもこんな良い作品を観て欲しいとできたのが当倶楽部。是非、仲間になってください。

### <確認事項>

- スタッフは、全員が無報酬の市民で構成されております。活動報酬などはありません。
- スタッフの経験、未経験は問いません。映画好き、こんな企画がしたいなど提案ある方どうぞ！
- 例えば、もぎり(チケットの確認)1時間だけ手伝える方でも大歓迎です！

ご関心のある方はご連絡ください。→ [yokohama\\_kinemaclub@yahoo.co.jp](mailto:yokohama_kinemaclub@yahoo.co.jp)



## <アンケート集計結果>

(2021年8月9日 第64回上映会「夢は夜ひらく」)

○来場者数:140人

○アンケート回収数:50枚

○回収率:35.7%

○上映会の情報入手先 50人(複数回答含む)

- |               |            |         |           |
|---------------|------------|---------|-----------|
| ・会からの案内(メール)  | 4人(8.0%)   | ・ホームページ | 1人(2.0%)  |
| ・ポスター、チラシ     | 8人(16.0%)  | ・友人、知人  | 4人(8.0%)  |
| ・新聞、情報誌等のメディア | 17人(34.0%) | ・プレイガイド | 8人(16.0%) |
| ・その他          | 8人(16.0%)  | ・無回答    | 1人(2.0%)  |

○横浜キネマ倶楽部の上映会に参加回数。

- ・初めて 30人(60.0%)
- ・2~4回目 15人(30.0%)
- ・5~9回目 4人(8.0%)
- ・10回以上 1人(2.0%)

## ○作品についての評価

- ・とても良かった 27人(54.0%)
- ・良かった 17人(34.0%)
- ・あまり良くなかった 3人(6.0%)
- ・良くなかった 0人
- ・無回答 3人(6.0%)

### とても良かった

- ・DVDと異なりスクリーンでみる映画は楽しい。昔の役者は華がある。
- ・横浜が舞台の映画をお願いします。横浜のなつかしい風景楽しめました。今はなくなったドリーランドはあのような感じだったのですね。感慨深いです。
- ・ロケ地も見慣れた場所ばかり。スターも若々しい姿。園まり様の魅力満々、ムードあり。
- ・昔の横浜の風景、施設が見られてとても良かった。
- ・ブルーレイで、カラーがとても美しかった。やはり大画面で見ると横浜の風景も、今と変わらず、風情がありました。
- ・初めて見て、楽しかったです。
- ・横浜市内の各所が作品中に登場して時代を反映していると思いました。  
横浜市電やあのような形の電話ボックス等、市営地下鉄も開通前、根岸線も大船まで全通する前、みなとみらい線も無し等。

### 良かった

- ・高橋英樹さんの役柄が逆ではとも思いましたが、渡さんの役柄としては新鮮でした。ただ露出が少なく残念でした。
- ・いわゆる1970年前後というのは映画が一番すさんでいた時代だと思います。  
この映画も典型的なプログラムピクチャーで、冒頭は歌謡映画、全体は日活ムードアクションで、これはこれで良き映画だったと思います。”
- ・自分が今映画を見ている場所が映画に出てくる、奇妙な感じを味わいました。  
昭和36年生まれの自分にとって、あまりにもなつかしすぎる風景が次々に展開されて、このままこの風景の中にはいつてしまいたい(市電、緑色の氷川丸、昔の中華街etc)、と思う瞬間があり、内田百閒の「旅順入場式」のような恐怖感を味わいました。映画ってこわいですね。

## ○佐藤利明さんの講演について。

- ・とても良かった 33人(66.0%)
- ・良かった 10人(20.0%)
- ・あまり良くなかった 0人
- ・良くなかった 0人
- ・無回答 7人(14.0%)

### とても良かった

- ・豊富な知識とトークの上手さ。大変おもしろく拝聴しました。
- ・貴重なエピソードが聴けて良かったです。

- ・映画の内容が分かり、なつかしかったです。
  - ・お話し詳細で分かり易い。映画を何作も案内して最高。日活大ファンでよく映画をみましたが、知らない題名が多かった。
  - ・ひとつひとつの映画のエピソードを語ってくださり、ありがとうございました。佐藤さんの渡さんへの思いも感じうれしかったです。と共に渡さんがもういないと思うとつらくて涙しました。
  - ・とても詳しく説明していただき、おもしろかったです。
  - ・私自身も再放送で私鉄沿線97分署、太陽にほえろ、探偵物語、西部警察等をよく見ていた世代です。
- 私も大門部長刑事（大門軍団）本当に好きでした。パート1からパート3までほとんど見ていました。

☆☆☆ アンケートご協力ありがとうございます ☆☆☆



## <<<横浜キネマ倶楽部のページ>>>

『17歳の瞳に映る世界』（原題「Never Rarely Sometimes Always」）について  
 横浜キネマ倶楽部 岡田明紀

この映画のストーリーは、17歳の女子高校生が中絶手術をするためにニューヨークまで従妹と旅するロードムービーである。旅の目的が中絶手術というネガティブな内容だけに、中絶に対する問題意識がある人以外は積極的には見ないような題材の映画だ。主役の17歳の少女オートム（シドニー・フラニガン）と彼女を取り巻く登場人物との葛藤を描く内容を想像すると肩透かしをくらう。映画は少女が中絶するまでのプロセスを追っていただけの映画になっている。妊娠させた男性の存在、家族の対応、一緒行動

を共にする従妹スカイラー（タリア・ライダー）との対立、高校生が中絶することに対する是非についてといった諸々は一切触れられない。この映画の主眼はそこではないのだ。だから独特の雰囲気映画に流れている。エリザ・ヒットマンの演出は、あくまでも17歳の少女の心情に寄り添ったものになっている。だから、中絶するための手術代をアルバイト先のレジから盗んで工面する件についても最後まで不問となる。窃盗は明らかに罰を受けるべき行為である。通常のシナリオであれば、前述した数々のエピソードを少女が成長するための対峙する「対象」として描き物語の推進力にするのであるが、この映画は、徹底して「他者との対峙・葛藤」を排除している。それで面白くなるのか？と疑問に

思うところであるが、少女の行動や心情に観客の焦点が誘導されているため、少女の何気ない行動にも観客が意識を向ける。この効果が終始緊張感を持って観客はこの作品を視聴（体験）するので決して退屈はしない。妊娠が判明して少女が最初にとった行動が鼻にピアスをすることである。この行動の理由は明確に示唆されていないが、見方によっては決意表明のようでもあるし、自傷行為にも取れ、単なるおしゃれの描写なのかもしれない。このように一つのシーンをとって色々な想像をすることができる。ストーリーのみならずこの映画のポスターイメージも非常に想像を掻き立てる。映画の宣伝は本国と日本で作品のメインビジュアルを変更するケースがあるのが、この作品も本国と日本のポスターデザインが大きく異なる。本国のポスターは主人公の少女オータムが何か訴えるような視線でこちらを向いている。対して、日本のポスターは女性二人の関係性を示唆するようなイメージが採用されている。本国のポスターの方が想像を掻き立てるが、正直作品を観たいという気持ちにはなりづらい。主人公の視線と目が合うため、心理的にポスターから目を逸らしたくなる気分になる。つまり、長くポスターを凝視できない。日本のポスターは若い世代の青春映画のようなビジュアルであるが、どこかで見たような既視感を与えてしまう。しかし、この映画の最大のポイントはタイトルである。原題は「Never Rarely Sometimes Always」。正直、何を意味するのかよくわからない。ところが、物語の後半で何度もこのタイトルが繰り返される。このシーンは今まで感情を表に出さなかった17歳の少女オータムが初めて自身の心情と

妊娠に至った状況を吐露する重要なシーンである。しかし、それを台詞によって説明するのではなく、「「(一度もない)Never (稀にある) Rarely (時々ある) Sometimes (いつもある) Always」の四つの選択肢に答えて行くことで過去の出来事が明らかになる演出は上手いと同時に何とも言えない感情を観客に抱かせる。感動というよりは衝撃に近いかもしれない。ここで観客は初めてタイトルの意味が理解できる仕組みになっている。

この作品に限らず、アメリカと日本とで映画のタイトルの役割は異なっていることがわかる。アメリカでは、タイトルは作品の一部であり、映画全体のテーマを集約したキーワードになっている。だから、鑑賞前は意味が判然としないタイトルも映画を鑑賞して初めて意味が分かるケースが結構ある。そのためか、日本では原題のまま公開する場合は必ず副題のような日本語タイトルが付く。邦題の『17歳の瞳に映る世界』では作品が伝えたいメインテーマがわからない。かなり抽象的なタイトルではあるが、17歳の少女に起こる何かで世界の見え方が変わるのであるといったアウトラインは想像できるタイトルになっている。これは日本において映画のタイトルは宣伝の一部であり、いかに多くの集客が見込めるかは、タイトルにかかっている。いわばタイトルは作品の一部というよりは広告的な役割を果たす。タイトルを作品の一部と考えるアメリカと宣伝の一部と考える日本とでは、当然タイトルの付け方も異なる。ポスターデザインやタイトルが異なっても『17歳の瞳に映る世界』が一見の価値のある映画であることは変わらない。



# << 次回第66回上映会のお知らせ >>

立川談志 没後十年 追悼上映会

『喜劇・いじわる大障害』

2021年11月6日 (土)

上映時間 13:30

一回のみ上映

講演: 15:00~16:00

立川談四樓さん



旭公会堂地図

[入場料]

前売 1,000円 当日 1,300円  
障がい者 1,000円 (介助者1名無料)

[会場] 横浜市旭公会堂  
(旭区総合庁舎4階) 相鉄線「鶴ヶ峰」駅 北口下車 徒歩7分

… 1971年/日本/カラー/79分/ブルーレイ上映 …

監督: 藤浦 敦 脚本: 中西隆三 音楽: 鎗木 創 撮影: 高村倉太郎  
録音: 紅谷愷一 監修: 立川談志  
出演: 立川談志、三遊亭円楽、林家三平、三遊亭小円遊、林家木久蔵、三遊亭円歌

## 横浜に映画ファンの思いが反映される映画館を作ろう!

横浜キネマ倶楽部は、横浜で永年親しまれてきた映画館の相次ぐ閉館を惜しむ映画ファンが集まり、2005年5月発足し、「横浜に映画ファンの思いが反映される映画館をつくる」ことを目標に掲げて活動を続けています。会の存在をより多くの皆様に知っていただき、映画館をつくる目標に一步でも近づきたい、それと同時に良質な映画を上映することで、映画ファンの交流の場を提供したい、という思いで年4回の上映会を行っています。

横浜キネマ倶楽部会報

横浜キネマ倶楽部 発行



…横浜キネマ倶楽部連絡先…

〒221-0835 横浜市神奈川区鶴屋町 2-24-2  
かながわ県民活動サポートセンター No.269  
TEL:080-8118-8502 (10時~18時)  
Eメール yokohama\_kinemaclub@yahoo.co.jp  
HPアドレス: <https://yko.jimdofree.com/>